

延喜式内苗代神社由緒

鎮座地 三重郡朝日町大字縄生二六四五

祭神

少彦名命・菅原道真・建速須左之男命
五男三女神・火之迦具土神・宇迦御魂神
志神天皇・大宜都比売神・天照大御神
豊宇気毘売神・不詳一座

祭祀

例祭 十月五日 春大祭 四月十九日

由緒

社伝によれば、白鳳年間（六五〇）〜七二〇）に伊賀国の敢国神社より少彦名命を勧請して祀ったと伝える。「延喜式」神名帳式に朝明郡の一社として記載されている。また社伝には山城国の北野神社より菅原道真公を勧請したという。「大吉天神宮納帳」の史料から戦国時代以前に天神宮として崇敬されていたと考えられる。

近世にはいると、元和三年（一六一七）に桑名城主となつた松平定勝より桑名松平家の家紋使用が許され、さらに牛飼料として田三反の寄進がなされる等代々の桑名藩主の崇敬の厚い社となつた。

明治二年（一八六九）の明治天皇御東幸にさいし、勅使亀井隠岐守をして奉幣の儀にあずかった。同六年村社列格。同三九年には、三重県より神饌幣帛料供進社の指定を受けた。同四〇年朝日町縄生鎮座の須佐之男社、愛宕社、稻荷社、八幡社、両大神社、蛭子社の各境内社を合祀した。昭和五年（一九三〇）郷社に列格。同二一年社格廃止。同年宗教法人として届出、現在に至っている。